



■ 決算のポイント

- ✓ 純損失**15億5,892万円**、前年度比約9.6億円改善
- ✓ 電気料の高騰が落ち着いたことなどにより、**維持管理経費**が前年度比約**8.9億円減**
- ✓ 処理水量は前年度比**1,537万立方メートル**、**2.3%減**
- ✓ 関係市町の**維持管理負担金**は前年度比約**5.3億円減**

損益の状況 (消費税及び地方消費税を除く)

■ 収益	482億5,375万円	(対前年度比 ▲2億6,635万円)
■ 費用	498億1,267万円	(対前年度比 ▲12億2,318万円)
■ 純損失	15億5,892万円	(対前年度比 +9億5,683万円)

- ✓ 収益の主なもの：維持管理負担金、一般会計繰入金等
- ✓ 費用の主なもの：汚水処理や維持管理の経費、減価償却費等

資本的収支の状況 (消費税及び地方消費税を含む)

■ 収入	214億9,639万円	(対前年度比 +4億7,168万円)
■ 支出	269億6,521万円	(対前年度比 +9億0,683万円)
■ 収支差	▲54億6,882万円	(対前年度比 +4億3,515万円)

- ✓ 収入の主なもの：国庫補助金、建設負担金、企業債等
 - ✓ 支出の主なもの：施設の建設改良の経費、企業債の元金償還 (57億円)
- ※ 収支差のマイナスは損益勘定留保資金等で補填

■ 業績ハイライト () は前年度実績

業務量 6億4,268万立方メートル※
(6億5,805万立方メートル)

※1日平均：50mプールで約702杯分に相当

- ・ 約562万人の家庭排水 (BOD:110~290mg/L) 等を良好な水質にして河川へ放流 (BOD:2.6mg/Lで放流)

維持管理 (税抜。減価償却費等を除く。)

汚水処理等経費：約254億円 **財源** 市町負担金222億円
(約263億円)

- ・ 電気料が前年度比約19億円減少
- ・ 老朽化が著しい施設の**修繕**を約71億円実施

設備投資 (税込。翌年度繰越を除く。)

建設改良費：約213億円 **財源** 国庫補助金101億円
(約203億円) 市町負担金 54億円
県企業債 58億円

- ・ 老朽化した機械電気設備の**改築**等に約110億円
- ・ 耐震基準に適合しない施設の**耐震化**等に約45億円
- ・ 再生可能エネルギーの活用促進による**温暖化対策**等に約35億円

引き続き、24時間365日

絶え間なく下水道サービスを県民に提供



■ 財務ハイライト

✓収益的収支の状況



消費税及び地方消費税を含まない



✓資本的収支の状況



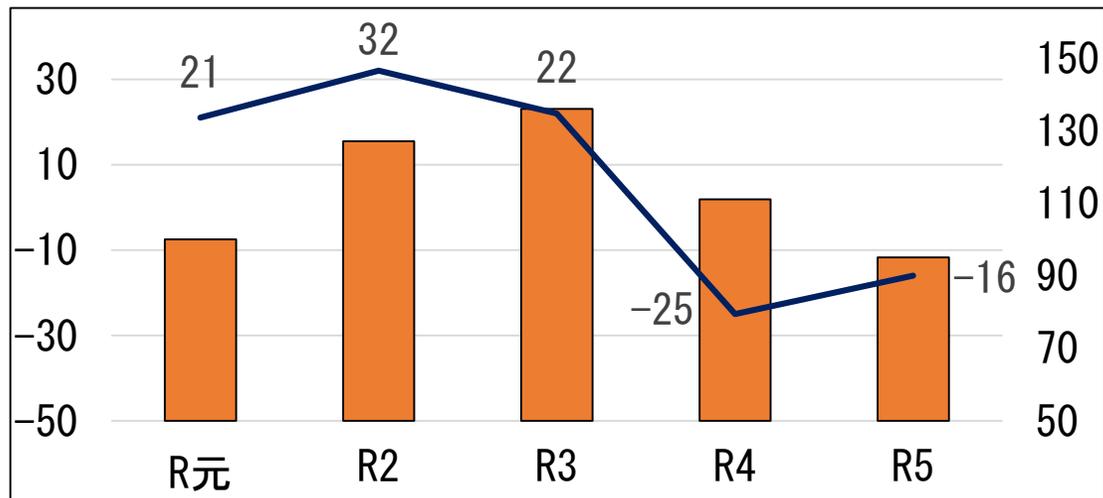
消費税及び地方消費税を含む



* 資本的収入が不足する分は損益勘定留保資金等で補填

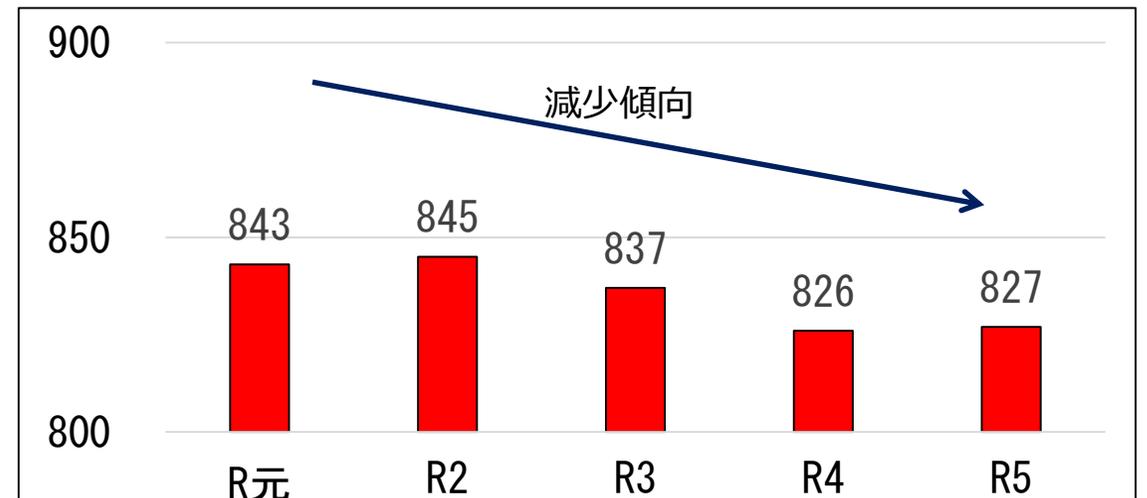
✓損益の推移

(億円 折線：純利益・左目盛 棒：未処分利益・右目盛)



✓企業債残高の推移

(億円)





＜流域下水道管内図＞



流域下水道とは
 県内47の市や町の公共下水道をつないで下水を集め、終末処理場でまとめて処理する下水道で、県が建設し管理しています。

流域	処理場	関係市町	令和5年度年間処理水量	令和4年度末処理人口
荒川左岸南部	荒川水循環センター	さいたま市、川口市、上尾市、蕨市、戸田市	214,877,364 m ³	1,989,253 人
荒川左岸北部	元荒川水循環センター	熊谷市、行田市、鴻巣市、桶川市、北本市	48,509,364 m ³	336,771 人
荒川右岸	新河岸川水循環センター	川越市、所沢市、狭山市、入間市、朝霞市、志木市、和光市、新座市、富士見市、ふじみ野市、三芳町、川島町、吉見町	194,419,916 m ³	1,644,334 人
	新河岸川上流水循環センター			
中川	中川水循環センター	さいたま市の一部、川口市の一部、春日部市、草加市、越谷市、八潮市、三郷市、蓮田市、幸手市、吉川市、白岡市、伊奈町、宮代町、杉戸町、松伏町	157,924,411 m ³	1,428,828 人
古利根川	古利根川水循環センター	久喜市、加須市	14,564,387 m ³	110,880 人
荒川上流	荒川上流水循環センター	深谷市、寄居町	2,268,026 m ³	18,523 人
市野川	市野川水循環センター	滑川町、嵐山町、小川町	4,592,263 m ³	38,737 人
利根川右岸	小山川水循環センター	本庄市、美里町、神川町、上里町	5,524,256 m ³	54,112 人
計	8流域 9水循環センター	47市町	642,679,987 m ³	5,621,438 人